

在 福 道

第十四号

初五、字畫道部

巻 頭 言

ほかのだれでもない自分。

感動において

境地において

過去の自分ではない今の自分

その自分が今の感動を今かく。

独自の個性が今の境地で筆をふるう。

ぶかつこうでも生きた書を

きれいでなくても自分の書を

古典の作者たちが

それぞれの作品を生み出した様に。

その生まれを

私どもはすでに

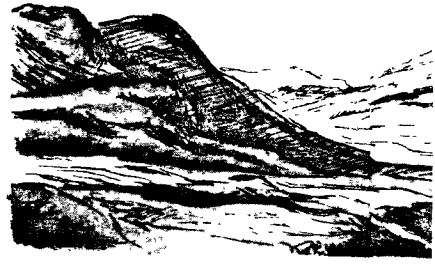
感動をもって体験してきているのだから。

「書」



目次

巻頭言	1
目次	2
書道講座「篆刻について」	法四 三 苦讓二 4
書道部に入学して	法一 神代祐子 6
書について	経四 新堀龍一 7
連盟とは………	経三 橋本秀昭 8
一年間の収穫	経二 合屋良平 10
入学おめでとウ	商卒 池田雅孝 11
書道講座「書道の基礎一」	商三 山口達也 12
書道と私	経三 宮崎秀公 15
現在の隆	経二 山本登 17
私のサークル観	商三 地頭蘭裕孝 17
私は時として	法四 平田順子 18



狂歌	経卒 本園 義雄	19
ぶろふいゝる		21
福岡大学書道部規約		26
か. ん. び. げ. ん.		29
編集後記		30

篆刻について

法四 三 苦 讓 二

書道芸術の一つとして篆刻があります。

この存在はいろんな展覧会に臨んでも地味な存在に見えるようですが、私が今回書道講座にあげたのも、篆刻における芸術性、つまり毛筆とは異なった線質と空間の妙味を少しでも、理解できたらと思ひ筆を取りました。

1. 篆刻の語義と解釈

篆刻の篆は勿論篆書体を意味し、その篆書体を刻るところから名称られ呼称されたものだと思いますが、印には必ず篆書体を刻らなければならぬという規定も制約もありません。ただ謹厳性とか、変化とかが他の楷行草隷よりはより以上に存しているということと印の文字は方寸の世界に屈曲させなければならぬ関係上、最も適した字体がこの篆書体であるわけです。篆刻というものは元末から明初にかけて当時の文墨人の間に、従来の印は信也の堅い考えから、石を材として楽しむ方向に、これらの人たちが嗜むようになってから行われたもので、広義に正しく云えば印であります。しかし石に刻った印だけが篆刻といひ、他の材では篆刻といえないということはありませぬし

篆刻という言葉も印と同様広義に解釈して差支えないと思ひます。ただここで大切なことは篆刻と印判との相違は文字の味わい(書)、文字の線質、空間の処理による芸術的雰囲気を目的に作るのが篆刻であり、印判は技術の優劣こそあれ押して用を足りるところに、同じように作られるこの両者に、この様な目的の違いがあります。このように篆刻には文字の味わい文字の線質、空間の処理の他に、毛筆では表わすことの出来ない線質、これが篆刻の場合の空間と文字の処理は小さいだけ一直線にその全貌が目に入りますから一層嚴密になり造型意欲が盛り上げられるのです。書作の連綿草等に見る流れる動の美しさに対して、無限の広がりを感じさせる建築的な静の美しさは篆刻の良さでもあり、難しさにつながると思ひます。

2. 用 材

A・印 材

一口に印材と云えば小刀をもって刻れるものはすべてといえましょう。南瓜のヘタ、いも、瓦の破片、海岸や山の雑石などから、石膏、リノリウム、ゴム、竹根、木類、コルク、ウルシ、牙、角、金、鉛、鉄、ガラス、水晶、玉類、翡翠、珊瑚、寶石類、陶磁類、臘石など我々が日常目に触れる多くのものが印材としての用をなします。しかし刀で刻ることが毛筆で紙に書く如き趣きを出すのは臘石の右にでるものはありません。この臘石が使われたのも篆刻という名称が現われだした頃から文

人の間に珍重されるようになったのは当然のことでしょう。一口に臘石といっても、その種類は実に多く価格にして一個数十円のものから数万円もする高価なものまであります。そこで便宜上日本産の石（いわゆる切石）と中国産の石とにわけて説明します。

先ず日本産石は石の産地によって色々と石質が異なりますがあまり質が密でなく、堅すぎ、柔かすぎてもろいのが多くまた光沢が少ないようです。次に中国産の石ですが現在印材になっているこれらの良石は殆んど産出しておられないようで従って日本国内にある印材は何十年か或はもっと前に採って加工したものでばかりです。中でも一番お目にかかれるものは寿山石、更紗石等でしょう。しかしこの他にも種類が甚だ多く同じ坑より出た石でも光沢や色の相違によって名称が異っています。

B・切 刀

切刀は双刀と片刀とに分けられますが石を刻す場合は片刀は殆ど用いませぬ。

形は円筒型や扁平型があり用途、好みで使います。印刀の購入する際として刀物は何でも同じですが、やき加減が大切で、やきが甘いと刀の先端を石にあてると当りませぬ。やきが強すぎるとぼろぼろ刀が けます。刀の巾は二分から三分位のが適当でしょう。

C・印色（印泥とか朱肉ともいう）

印色は書の場合に於ける墨同様か或はそれ以上の働きをするもので、これの良い悪いによって作品の差が出来るから篆刻に於ける印色はたいへん重要な役目をもっています。

購入の際として自分の好みの色を探すことはよいが、押した印の周囲に油がしみ出すようなものはさけ、また持ってみて比較的重いものが良いとされています。これは本物の朱（水銀の化合物）を原料としているからだそうです。使用する際印色は無駄のなく満編無くつけることはよいのですが不経済にならないよう軽くパタパタと顔に白粉するようにつける方がよいと思います。

D・印箋（用紙）

用箋には玉版箋や高い中国詩箋か或は日本雅箋の密なものから和紙、他にはアート上質模造紙のような洋紙類も多く使われるようになりました。用紙は何でないと悪いというものではありませんからその特徴個性を生かし効果を上げればよいわけです。

3. 篆 文 辞 書

篆刻に一番重要なものは、刻る技術よりも、印面の文字です。文字そのものの趣きが構成の妙と相俟って、作品の調子を高くするので、文字の趣きとは形態、線質を合わせたものです。篆刻する書体は、決して篆体に限られているのでなく龜甲文、

金文、篆、隸、楷、行、草、かな、エジプト文字、ローマ字等何でも構いませんが、最も造形味があり、これを製作に發揮できるのは、何といっても上記三体ではないでしょうか。篆文辞書としては篆字彙、十体字範、五体字類、印文字、(前田黙鳳著)、篆刻字林(服部耕石著)などがあります。

4. 選文↓布字構成↓印稿と字入れ

材料と篆書辞典が揃えば、次は選文(刻る語句)であります。これは篆刻をする上に最も大切なことで、如何に刀を上手に使っても選文が悪いと、佳い作品にはなり難いのです。これには二つのことが考えられます。その一つは既に動かすことのできない語句、すなわち姓名、雅号、齋堂号等、変えることの不可能なもの、その二は好みの語句を自由に選んで刻る場合です。

これには金言、箴言、間適文、季語、詩句等極めて広範囲にわたり、何等限界がありません。詩句の適当な書籍は、墨場必携漢字典、禅林句集、故事、成語辞典等その他色々あります。次に布字構成、これは刻ろうとする面に対する字配りと余白のことで、篆刻製作の上では最も重要で厄介な箇所でしょう。しかしその平面最も楽しい時ともいえます。印面における文字の大きさの割合も字体によって違わす必要があります。簡単な字画のものは複雑な文字より小さめにしたり、デフォルムさせて余白を美しく残すということに心掛けます。文字の置く順序は今迄の慣例として縦書きで、四字を例にとれば¹₂³₄となり

が、廻文という特殊例もあり廻文とは読んで字の如く、文を廻して読むことで²¹₃₄又は⁴¹₃₂となりませんが、これは四字に限られていますし、これを用いるのは、廻文にしないと配字の工合がうまくいかないという誤句のみに限られ、必要のないも

のまで廻文にするのは感心したことはありません。次に最終的な用刀です。篆刻で刻ることは書で書く場合と同様最も大切な所作であるわけです。印刀の把り方にはいろいろありますが、筆を持つのと同様最も自然に楽に運べる方法がよいと思います。古来から篆刻の法のうち「刀法最も伝え難し。」といわれていますし、自分なりに、実際に刻って研究され会得して下さい。篆刻では臨書のことを模刻といい仙人の作を見てそっくりに刻って妙味や技法を修得して創作に活し、すばらしい作品を作して下さい。

「書道部に入部して」

法一 神代 祐子

「書道部に入部して」という題の原稿を頼まれましたが、何を書いてよいのかさっぱり見当が付きません。だから最初の印象や入部の動機などその他思いつくままに書きたいと思います。

「うわっ男の人ばかり、どうしようやめようかな」というの

が第一印象でした。それに皆恐そりに思えました。でも、クラブに数回来るうちに段々慣れてきましたし、ホントは、皆親切でいい人達ばかりだということもわかりました。今は、早くクラブに溶けこみ、先輩や同輩といろいろな事を話し合えるようになりたいと思っています。

次に入部の動機ですが、これは、字を書くのが好きな事、習字ではなく書道にふれてみたい事、このマンモス大学の中でひとりぼっちになりたくなかった事や、大学のクラブ活動に参加してみなかった事などです。練習に参加して感じたのは、先輩達は、皆ひとりひとり字に対する感じが違い、書道に対する姿勢を各々持っていていらっしやるんだなということです。私も早くそういう風になりたいと思いますが、あせらずにいきたいと思います。

今は、まだクラブの練習に参加することのみが、私のクラブ活動参加の姿勢ですが、早くクラブの組織や運営などを理解し、積極的にクラブ活動に参加したいと思っています。

「書に つ いて」

経四 新堀龍一

福大書道部に入部してもう四年目である。考えて見れば、過去三年間、書道というもの、又は人間関係など色々疑問を抱き、止

めようと思った時期も幾度かあった。しかしこれまでのいろんな形でクラブから得る物は多かった。と思う。そして、私は今三年間に於いて書というものにどのように考えて来たかを、又これからのように取り組むべきか、私の考えを書いてみようと思う。

書とは、とにかく、紙面に書くということが根本的な行動であり、書くという行動を起こさずしては書というものを、考える事はおぼつかない。書は芸術であり、芸術といわれるものには多かれ少なかれ、個々人の特徴が表われるのでなければ意味がない。要するに獨創性というものにつながるのである。紙面に書こうとする時、そこに表現される形態、線質、余白、又は色彩(濃淡)らは、その自由な個性により表現されるが、これらの形態、線質らを個性として表現するには、元からの練習と書に対する執着力による自己錬磨である。最近書に向う時、こういう事があまりにも考えられていないような気がする。作品創りをしようとする時私たちが学生というものは、書作品に対するもの考えも未熟であるので手本というものを、手にするのは、あたりまえであるが、いつまでもその手本に固執しすぎる。単に、模倣だけに終わってしまっている。そのように思われて仕方がない。手本は、あくまでも自分自身が創ろうとするものに対する良き道しるべでありたい。手本は優れており、又、私たちに雲の上にある様なものだが、私は、こういうことから手本を固執するのは嫌いだ。書作品を創る時、個々人の持っている味わいを十分に發揮すべきであり

それがなければ、見る人にはなんの情緒も与えられないと思う。しかし、書に対して知識のない人、即ち初心者にとって、手本というものは、十分に効果的であることは言うまでもない。又、書にある程度理解はあっても利用すべきであるが、作品を創る上で、未熟な私たちにとっては、觀念の上だけで、創造することにとらわれぬ。だが、経験の後にほんとうの創造は達せられるのだ。そこに至って古典というものは重大である。古法帖が大切という意味は、それは数百年、数千年という長い歳月を経ているにもかかわらず現代の世の中でも火の打ちどころのない傑作ばかりである。ほんとうの美を添えた書は近代感覚をもち合わせているものである。時代は変遷しても良いものは良いのである。ところが、たとえばある時代にこういう書が良いといわれてもそれが後世に受け入れられないようなら、それまで生きていた書というものには現代性に相通じていなかったと言わなければならぬ。このように現代性を持ち合わせているものだけが生き残るのである。そしてそれらを私達が臨書することは、書に対して最も理解し知識を深める基礎と為り得ると言うべきである。できるだけ、私達は多くの古典をあさり書に対する柔軟性を養うことが重要なのである。そしてもう一つ私は疑問を感じることもある。書というものは、文字を書くからにはそこには意味もあり又当然読めるべきはずであるが、私達の中でこれを読めたりその意味を理解している人がどれだけいるでしょう。私達が書をやる上で一番躊躇

するのはこのことではなからうか。漢文・漢詩やその文字というものは本来中国のものであり、私達日本人にとって日常茶飯時に見ているものではないというのが最大の抵抗を感じるところではなからうか。もしこれが素直に読めもし、意味も理解できるものなら、書というものは、書作品というものにもっとも親しみを感ずるのではないが、非常に残念な事である。しかし日本のものでない以上仕方がないのである。そこでもっと私達はその漢文・漢詩というものに対する追求の姿勢というものを書技向上とともに、やっぴいかなければならないかと考える。それには時間を今よりも必要とするだろうがそれをともしに行なうことによつていっそう書というものが理解できるようになるのではないかな。ほんとうに書を好きでやっている私達なのだからもっとも書に対して積極的でありたいものである。

「連盟とは・・・つた？」

經三 橋本 秀 昭

連盟に関する原稿を書いてくれと、庶務の至上命令で、引き受けたもの：さて、何を書いて良いやら、こうして原稿を書くなんて、何年ぶりだろうか？非常に苦痛の様に思われたが、いざ書き出すとそうでもない。それもそのはず、のんびり書いては

いられない。一切は明日なのだから、何がなんでもこのマスを埋めなくては。恐い庶務の方からうらまれそうで……。

さて、福岡学生書道連盟が、創立して以来今年で十三年。加盟校も増加し現在は、四年生大学五校・短期大学六校の計十一校。連盟員も、四百名を越えようとしている……福書連。

その組織は、関東・関西における学生書道連盟とも引けをとらないと思うが、はたして本当に、福書連は……十三年という歳月の流れの中で発展し、飛躍しているのだろうか？ 連盟も完成期だ！ 発展期だと、言われながら数多くの問題を抱えながら今日に至っている。その問題をあげてゆくといろいろあるが、安定性を示している連盟行事のマンネリ化、そして、その行事の消化の問題。また、連盟員の連盟意識の低下の問題など、いずれも、重大な問題でありながら、解決出来ないまま今日にある。

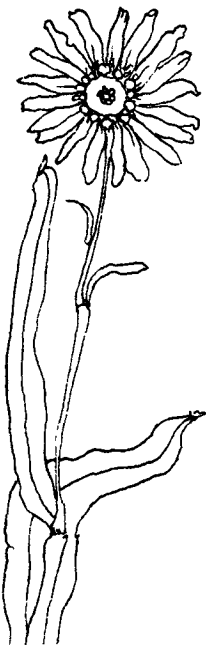
ここ二、三年の間「連盟員の連盟意識の低下」という問題がクローイズアップされ、問われ来たが、この根本問題も十三年という歳月が流れるにつれて、深刻化した様である。今、一度、創立当時の連盟員の熱意と自覚・団結を思い起こしたいが、我々が察する事の出来ないものである。この問題の解決策として、過去において当番校制、昨年の協力校制など施行されたが、今期は昨年施行した協力校制の反省に基づき、再び協力校制を施行し、連盟を運営しているわけだが、前途多難の様である。連盟意識の向上に少しでも、役立てばと考察された協力校制！ うまく利用して連

盟の意識の向上に、そして、サークルの団結を計るためにも、積極的に取り組んで欲しいと思う。

連盟の諸根本問題も、サークルの問題に還元される様に思われる。特に福書連という四百名を越す大組織の中で、連盟員が全てお互いの顔を知り合うことは不可能だし、創立以来の連盟とは、質的に異なっているかの様に思われる現連盟において、連盟にほとんどたずさわらない無関心を盾が出てくるのは、当然な事かもしれないが、まず連盟なんて！ というより、連盟を少しでも知って欲しいと思う。福書連とは何ですか？ と聞かれた時に、困らないように。あと今期は、錬成会、九書大会、連盟展と大きな行事をひかえているが、是非多参加した上での批判なら喜んで観迎します。

いろいろと書いて、どうやらうまった様ですが、やはり、書きたかったことは、連盟を発展させるのは連盟員であるという事の様だ。いろいろと福大において、置きざりにされがちな連盟・もう一度、連盟というものを考えて欲しいものです。

“ いったい連盟はどうなるのだろうか？ ”



「一年間の収穫」

経二合屋 良平

なんともいえない清らかな香りのする墨の臭いにつられ部屋のドアを開いてはや一年余り、夢中で先輩方のされる事をまねし、部室の雰囲気にも慣れ、仕組もだいたい分かって来た今日この頃です。

夏の合宿での厳しさ、練習中は日頃の先輩方の顔とは違い、緊張と恐さで一杯でした。しかし、休憩時間などは日頃の先輩方の顔に変わられる。その時間、時間のけじめというものは、さすがに大学生だなあと感じ、責任と実行力のある点で感心しました。夜の茶話会などでは昼の厳しさを忘れ、楽しく談話したり、ブロールスなどをして遊び、全員の先輩や同輩の顔と名前を覚えたのもこの合宿でした。

又、一連のコンパなどを通じての上と下とのつながり、練習中と違った雰囲気の中での交わりというものは真の意味での友情、特に酔った時などは日頃話し合い難い人でも気楽に話せる場という意味では、大事を行事の一つではないかと思えます。

春の合宿での収穫と言えば、まず山登り……登る途中は、頂上はまだかなあ、まだかなあと思ひ苦しかったけれども、いざ登り

頂上に立つて下界を眺めた時の雄大さ、すばらしさは何とも言えません。一つの事をやりぬこうと思う時には、大きな難関にぶつかるとは思いません。でも、それを達成した時の満足感は何と気持ちのいいのではないのでしょうか。人間に与えられた特権でしょう。

カッターでは、本当にみんなの協力と言うものを学びました。個人、個人がいくら頑張ってみたところで、どうにもなりません。全員で力を出し合つてこそ、あの大きな船が動くのです。それと同じように、書道は個人プレーです。しかし、大学という組織の中でサークルを形成している以上、全員の協力と輪が必要となつてくるのではないのでしょうか。

最後にサークル内の出来事を上げると、例年、同じ事の繰り返しが行なわれます。しかし、その年、その年の一年生の立場、二年生、三年生、四年生の立場といった、その場、その場の置かれた地位というものは、その人自身一度だけしか経験しません。あたりまえの事ですが、その経験によつて、他の何もやっついていなく上での規律や道徳が生まれ、この様を過程から輪が広がっていくのでしょう。

「入学おめでとう」

商卒 池田 雅孝

新入生の皆さん、入学おめでとう。さぞかし、希望に胸ふくらませていることと思います。まず、自己紹介から。私は四十七年度卒業の池田と申します。そう、皆さん方を入学させる為に邪魔者として学校側からクビを言い渡されて追い出された者のひとりです。生まれは鹿児島、育ちは北九州、趣味は優雅(?)に、球技と書道、散歩、徳利鑑賞(つまり酒を入れるやつ)といったところ(少々キザですかね)

私も、書道部員として四年間、ま、なんとなく過した訳ですが、このクラブに入って「良かった」と、つくづく思っています。私は、大学、とやにマンモス大学と言われる中にいて、サークル活動を取ってしまおうと、何にも残らない様を気がします。勉強が学生の本分ですが、講義と共に、いやそれ以上に学ぶものが多いのではないのでしょうか。そういう点で私は私なりにサークル活動をとらえてきました。四年間のうちで、何度かクラブをやめてしまおうかと考えたこともありましたが、確かにやめてしまうのは簡単なことですが、その後、自分に何が残るだろうかと思うと自分自身の中に占めるクラブのウェイトというものは大きなものがあつた

んですね。いきなり皆さんにこんなことを言うのは甚だ無作法ですが、皆さんも入った以上は、四年間を区切りとして、クラブ活動を行っていたいただきたいものです。このクラブ、字の上手下手はともかく、練習をより多く積み重ねたものが勝ちですから、大学に入って初めて筆を握った人でも腕の上達した人は多いということを申しておきます。その為には、クラブの運営をうまくやって行く上にも、積極的、且つ自主的にやらないと駄目ですね。

それから、これは新入生に限らず言えることですが、学生としてまた、一個の人間としての礼儀、マナーを身につけて欲しいものです。私はこのことについては何度か言ってきましたが、今さらでも習慣づけていないと、社会に相手にされなくなりますよ。

また、クラブ活動というものは、団体的な行動が多い為、ある程度、自我を犠牲にしなくてはなりません。クラブの行動を決定する為の発言等は活発に行なってもかまいませんが、いざリーダーが決定した行動には、部員全員が互いに協力し、一丸となる必要があります。自分は反対の意思を持っているから協力しないと、いわけにはいきません。その為にはいろんな制約を受けるのですが、それに耐えることも大事ではないでしょうか。自分の行動というものは本人が決めることです。強制的にしろと私には言えません。今まで部をみてきた私としては、どうもクラブ活動に、自己中心の打算的な行動を取りつつある様な気がしました。これが、私の感違いならうれいんですけど。自分を大事にす

るのも結構ですが団体行動の中ではあまり良いものとは言えない様です。自分を苦勞の中に置いて、己の限界に挑戦してみたいものですね。

クラブ活動の中で今まで述べた永続性、礼節、忍耐等の他に、そこはそれ、人間の集まりですから、情というものを忘れてはならないと思います。人数が集まった中に於いてはあながち、人の心というものは索漠たるものになりやすいものです。現在の社会をみても「隣は何をする人ぞ」といった具合に、他人には無関心というように風潮がみられますが、ひどい話ではないでしょうか。話が飛び過ぎた様ですが、それ程人の心というものが全てとは申しませんが、徐々に冷えて行く様を気がしてなりません。人と人との飾れ合いというもの、もつともっと大事にして下さいよ。同じ部員同志でそういう疎外された人間を作らないように願います。四年間短いですよ。たった四年間の学生生活の中で、クラブ活動として書道部を選び、そこに集う人間と仲良く、互いに協力して、多くの仲間と共に最大の価値を見出す為に、皆さんの若さをフルに發揮して、その若さが本当に自分のものとして身につくよう頑張ってください。

自分で何を書いているのかわからなくなってきた様ですので、余りボロを出さない程度に終わる事にします。

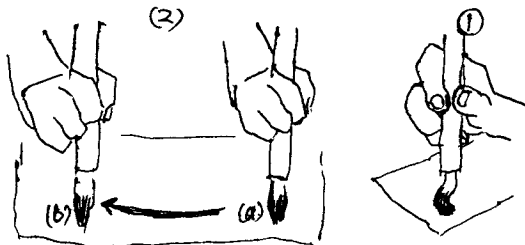
書道講座

商三山口達也

新入生の入部に当り、書道の基礎的な事柄を述べてみることにする。

一、筆使い

書道ではこの筆使いと運筆法が書を支えている一つの柱であるといっても過言ではない。毛筆は他の筆記用具とは全く異なり、独特の弾力性がある。我々はその弾力を生かして、筆を運んでいかなくては行けない。



①のように筆を立てて弾力を持たせて書く。条幅など大きいのを書く場合大変重要になってくる。また②のように、(a)で打ち込んで(b)まで筆を運ぶ。しかし(b)の地点で筆先が弓のように曲がってはいけない。そこでパネを利用して、筆先をピンと立たせておかななくてはならぬ。すなわち、弾力を持たせるか否かによって、線質に微妙な変化を生ずるのである。次に古来用語に関する用語を述べてみよう。

(1) 直筆と側筆 一紙に対して垂直に筆を使うことを直筆といい、筆をやや自分の体の方、すなわち手前に倒して使うことを側筆とよぶ。

(2) 藏鋒と露鋒 一鋒とは筆先きを意味し、藏鋒とは鋒をつつむ用筆法で、筆先きが線の中心部をとる。また露鋒とは筆先きが露われること、すなわち横面を書いた場合には上部をとるよう筆を使うことをいう。

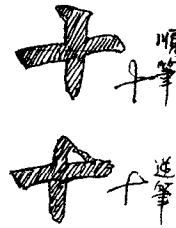
(3) 方筆と円筆 一方とは角張るといふ意味で、点画を鋭く角張らせるように筆を使うことをいい、円とは丸を意味し、従って丸味をもたせるようにして筆を使う。

これを総合してみると、側筆、露鋒、方筆などの用筆法で書く、力強く、鋭い感じになる。たとえば、北魏の代表的な楷書である高貞碑や、その他多くの造像記、あるいは隷書などに見出すことができる。また、直筆、藏鋒、円筆にも同様のことがいえる。つまり前者とは逆に、穏健な、あたたかさを感じさせる。それは鄭道昭の作品や、篆書などに見ることができよう。まとめてみると次の図のようになる。↓は筆の入っていく方向を、∴は鋒がとまっている位置を示したものである。これらの併用した用筆法の



代表的作例として、唐代の褚遂良の雁塔聖教序をあげることができる。一方、楷書の基本点画の用筆法として古来、永字八法があるこ

とは御存知であろう。永字には八法が含まれていて、これをマスターすれば万事OKというわけである。用筆法でもう一つ大切なものに、順筆と逆筆とがある。順筆とは、筆をすなおに使うということで、筆の鋒を巻き込むようにして使う方法で、逆筆とは、筆に抵抗をもたせて、逆に筆を当てることを意味するものである。前者では字が穏やかにできるが、後者になると毛のもつれによつて破筆(筆がわれること)になつたり、ねじれによつて荒々しい線となることがある。



二、筆の運び方

筆使いとともに非常に重要なものである。運筆には姿勢が何よりも重要である。基本的には、指法、手法、腕法がある。



指法とは、執筆に關して、筆と五指の状態をいい、大きくわけて、單鉤と双鉤の二法がある。拇指と食指で筆をもち、他の三指で支えるようにする法(a)が前者で、拇指と食指、中指でもち、他の二指で内側より支えるようにする(b)のが後者である。手法とは、執

筆の掌の状態をさし、ふつう虚掌実指を原則としている。掌に卵を入れることができるぐらいに虚にせよというのである。腕法とは、腕の状態をいい、(a)懸腕法、(b)提腕法、(c)枕腕法の三つがある。

次に、古典をもとにして、筆圧の大小、抑揚、速度の遅速などに目を向けることにしよう。

(1) 運筆の速度の早いもの — 軽快な線が表現できるが、浮薄にならないように注意することが大切だ。

(2) 運筆の速度の遅いもの — 沈滞した線になるが、ややもすると鈍重な渋滞した線になりがちである。

(3) 筆圧の強いもの — 太い線となり、力強く重厚な線となる。(2)と同じく鈍重にならないようにしなければならぬ。

(4) 筆圧の弱いもの — 明るくすっきりした軽快な線となるが、浮いた線となる傾向に陥りやすい。

(5) 抑揚の強いもの — 抑揚の強い線とは、要するに筆鋒の弾力性をフルに生かし、躍動的な、あるいは律動的な線であるが、うまくなりやらないと俗っぽくなりやすい。丸味をおびたあたたかさを感ずる。

(6) 抑揚の少ないもの — 単調となりやすいが簡潔ですっきりしている。

三、字形のとり方

文字は、点と線の組合せによって成り立っている。いろいろな

形があつて、数学にいう公式のようなものはない。個人の自由である。しかし、実用的な書、すなわち、各人が見て美しい、すっきりして見ためにも感じがいいという書、これをまず見ていく必要がある。だれでもそれを望んでいるのではあるまいか。(字が上手になりたいと思う奥底には)、

1. 水平の原理 — 横画を水平に引くことは、文字を整える根本原理の一つである。例えば「三」の字の場合、三つの横画を水平にしたとき、最も安定する。古典でも、篆隸楷の書体はこの原理を忠実に使用している。「三言王」

2. 垂直の原理 — 縦画が主体となつている字はその縦画を垂直にすることによつて一番安定するものである。「土千水」

3. 平行の原理 — 縦横斜めのいずれかの方向の線が二本以上並ぶ場合、それらを平行に書くと整齊な美が現われる。「里則多」

4. 等分割の原理 — いくつかの線によつて分割される空間を等しく、白の部分と同じにすると均整美が生まれる。「車冊欲」

5. 中心線一貫の原理 — 篆隸楷書の場合、中心線をまっすぐして、左右のバランスをとつて均斉をもたらす。「夷登高」

6. 基本形の原理 — 文字にはいろいろの形があるが、概形としては次のようなものがある。

縦長 — 月、目、身、良、など。 円形 — 水、好、派、海、など。

方形 — 横長 — 四、工、心、皿、など。 三角形 — 山、上、大、在、など。

正方形 — 同、図、行、陸、など。 逆三角形 — 下、可、市、など。

7. 背勢、向勢の原理 — 背勢は左右の線が互いにそり合っている形をいう。この形は動的で背が高く見え、清涼な感じをもっている。向勢は、背勢に相対するもので、上下が絞られ、中央部がふくらんだ形をいうもので、ふんわりした、柔らかい感じを表わし、重量感をともなっている。「月日」

8. 漸増、漸減の原理 — 線および空間がある比率で次第に長さや広さを増したり、減じたりするもので、美しいリズムが生まれる。「勿曲」

9. 均斉の原理 — 左右相称になりうる文字は、中心線を折り目とすれば左右のバランスがとれるというわけである。「本小楽」
10. 均衡の原理 — 点画の構成が左右相称ではないが、形以外の条件によって、つりあいがとれ、安定感をもたせる方法である。行草体にはこの原理が多く使用されている。また唐以前の楷書にもこの原理が多く生かされている。「走節方」

以上大ざっぱに筆の使い方から、字形のとり方まで目を向けてきましたが、少しでも何か得るものがあれば幸いです。

書道と私

経三 宮崎 秀 公

第一章 (デビュー)

私が、一本の筆を持つて、華々しく、書道界にデビューしたのが、忘れもしない小学三年の時の、五月の第二日曜日、つまり、母の日であった。どういうわけか、急に、その日になって、習字の塾に行きたくなり、発作的に、母に、「今日から習字の塾に行くよ」と、いって、さっさと一人で近所の塾に入会して母をとまどわせたのが、つい先日の事に思える。それから、高校入学までの七年間、毎週毎週小さな身体で、硯の入った重たいカバンをひきずって塾に通ったのだが、思えばあの重たいカバンをもう少し軽くしていたら、あと一〜二センチでも身長が伸びていたのではないかと、現在しきりに後悔している次第である。

第二章 (両手に花)

高校に入ると、すぐ、書道部の美女達の、一週間に渡る勧誘せぬにあり、入るつもりがなかった書道部に、やむなく入部した。入部してみると、女子三十人の中に、男子が自分一人だけ、両手に花とは、このことで、当時、ウブであった私は、毎日毎日顔を赤らめながら、部屋に入っていたのを、今でもよく覚えている。

又、私が部室に入った瞬間の、彼女達の、獲物を狙う様を目つきも忘れる事ができない。しかし、一年の時は、先輩達から（もちろんな女子である）、「金の卵」といって、可愛いがられ、鼻の下を長くして過し、二、三年になると、部長として、先輩の女生徒達を必死で、かわいがったりして、楽しく過した。書道の本当のおもしろさというものが、わかってきて、書く事が楽しくなってきたのも、この高校時代からで、一年、二年と、顔真卿の作品ばかりを、集中的に臨書して、三年頃になると、その臨書で得た線質を利用して、種々の方面の創作をやってみた。この高校時代には、顔真卿の作品以外は、殆どやらなかったが、ちつとも後悔していない。むしろ良かったと思っている。顔真卿独特の、重厚な線質が、まがりなりにも身につく、ある程度、応用できる様になったからだ。

第三章（幽霊部員）

大学に入っても、六月からではあったが、又やはり書道部に入部した。しかし、福大の書道が、今までやって来た書道とは、ずいぶん違っていた事、それにクラブに來ても話し相手がいなかった事から、次第に、クラブから遠ざかっていき、二年になると、殆んど、クラブには顔を出さない様になってきた。いわゆる書道部の幽霊部員となってしまったのである。最初は、下宿で、ひとりて書道をやっていたのだが、次第に張り合いがなくなつて、下宿でもやらない様になつていった。これはいけな、やつぱり

クラブに行つて皆と一緒に練習しよう、と思つた。でも気の弱い私の事、急に皆の前に顔を出せるはずがない。なにか、きっかけが、必要であつた。

第四章（カムバック）

そのきっかけとなつたのが、春の合宿だつた。クラブに顔は出さなくても合宿だけは、参加する事にしていたので、この合宿にも、ためらわず参加した。しかし、長い間、顔を合わせていない皆と、うまくやつていけるかどうか不安だつた。でも、いざ合宿の蓋を開けてみると、皆、他の部員と同様に気軽に話しかけてくれて、その不安は吹き飛んだ。おかげで、本当に楽しい、充実した合宿を送る事が出来た。この春の合宿で、しみじみ、クラブをやめないで、よかつたなあと、思ひ、帰りの汽車の中で、来年度はしっかりと頑張るぞ！と固く決心した。そして現在、その決心通り毎日毎日クラブに顔を出し、練習にも励み、充実した日々を送つており、又、これから先、一生、書道とは離れない様を気がしてきてならないのである。

終わり



「現在の隆」

經二山 本 登

青年期には多種多様な事を経験し、考え悩み拾得していく。

隆は丁大学の学生である。今年二年次生になった彼は、授業も数度しか欠席した事のない真面目な学生である。かと言って講義を一所懸命聞いているのかと思えば、居眠りをしているし、家に帰ればいつも何もせずに無駄な時間を過している。謂ば、どこにでもいる現代に即した平凡な学生である。

そんな彼の頭の中・胸の内を透し眼鏡でふと覗くと、そこには二つの悩みが存在している。一つはさておいて、他の一つは隆の所属するクラブの事である。彼の所属するクラブは、彼には似ても似つかぬ書道部である。けれども彼は、彼なりにサークル観を抱いていて、一年間続けてきたのである。新入部員という後輩が出来た現在、隆は一つの壁にぶつかつたのである。それは、過去一年間から得たタテ関係・ヨコ関係をすわち、先輩・後輩の関係そして同輩との関係の難しさである。

どちらかと言えば、彼は同輩よりも先輩との関係が、うまくいくようだ。先輩には何を相談しても頼れるという潜在意識があり、つい甘えてしまう。その反面、同輩には自己の存在を一段高くし

て、装い彼らとは合わないように「^{アツ}想と、してしまりののである。こうして隆は、一年間クラブ活動を過してきたのである。しかし、こうした行為から生まれた結果に、隆は過ちを今になって感じ始めたのである。

ヨコの関係を広く、地固めしをければ決して、ほんとうにタテには伸びないのである。

又、後輩が出来た現在、なむさらそれが必要だ。運営上でも、支障を来す。という事を隆はつくづく感じたのである。

そして、自分の抱いていたサークル観を、すっぱり脱ぎ捨て、新しくスタートしようとしているのである。

僕は、そうした隆の頭の中・胸の内を、覗いて見て、今頃は隆もきつと、机の上に国語辞典と原稿用紙を置き、ペンをひたすら走らせているだろうと感じた。

青年期には、多種多様な事を経験し、考え悩み拾得してゆく。

サ ー ク ル 観

商三 地頭蘭 裕 孝

人それぞれ考え方が違うように、入部の目的も様々であろう。しかし、このような組織に於いてどこかで一致（共通）するものが必要と思う。それが、我々で言うならば、「書くこと」、たと

思うのです。サークル活動に於いて、この特殊性を通じての関係
というものを生み出していかねばならない、サークルは、自
由探究の場であると言われるように、探究という言葉をとつても、
サークルの特殊性を無視することは出来ないと思うのです。最近、
サークルの低迷化、マンネリ化といった言葉をよく耳にします。
何故に、このような言葉が言われるのか？ そこには、現在の我
我が、求めようとすることに對して、積極的に求めようとするこ
とに對して、積極的に求めようとしなさい、つまり、受身的な考え、
受身的な姿勢でしかないからでは……サークルに於いて、自己
の存在を強く主張し、自由探究の場としてあるサークル活動に、
単に、属している、寄り合いの姿勢で臨んでは、いけないと思
うのです。我々は、自己が求めていることに對して、誰かが与え
てくれるだろうか、教えてくれるだろうかという受身的な考え方
を持つていつては、これからの書道部の発展性、向上性、そして
又、自己の向上というものは失なってしまうだろう。だからサー
クルとつて、個々の人々の積極的な姿勢というものが、大切にな
っていくと思うのです。このように言うと、サークル活動しか自
己にとつてないではないかと思われがちですが、そして、自分は
サークル活動が唯一のものではない、他にしなければならぬこ
とがあると……確かに、最初に言ったように、各々の考え方が
違うように、自己の行動、活動も相違すると思うのです。ここで
言いたいことは、書道だけしろとかいつているのではなく、与え

られた場として、その場において、精一杯やったらどうかという
こと、何事をするでも中途半端で終つてほしくないということ
です。サークル活動は、誰がやるおでもなく、他人がやってくれる
のでもなく、自分自身がやっついていかなくてはいけないと思ひので
す。そうすることが全ての面に於いて、責任感も出てくるし、や
らなくてはいいけないという意欲も自然と出てくると思うのです。

「私は時として」

法四 平田順子

私は時として歯がゆくて思わず地団太踏みたくなる。知識人の
観念論に對してだ。何かだまされたという気になるのだ。

私のような部類の者は、いわゆる知識人がつらつらとしゃべつ
た事に、すぐ、今までの自分の思考が確たる基準に裏付けされ
たものでないものだから、ハタッと目を見開かされたような気がし
て、感動までにつれ去られ、あげくには自己否定などをしてしま
うのである。ところが、実に後で、なでられた同じ手によつて時
を移さず「ビシャッ」と顔を平手打ちされたやうな不愉快な目に
あわされるのが応々である。つまり、私ら部類の人間が開眼や感
動したその話しはなんと彼らいわゆる知識人の観念論にすぎない
ということ。

私たちはだまされたという気がするならまだ良いが、その平手打ちさえ、口を開けて、ぼかんと見送るだけなのだから。そして後であふたと、もとの自分にもどる事に一所懸命にならねばならない。

彼ら知識人は前もって自分の「言行」が観念論だと意識していた時には「あれは単に観念論だ。」とのうのうと弁明することができるし、例え後に観念論だったと気づいたにしろ、彼らのその回復は何ら時間と精神的苦痛を共をわなないようだ。

ところがである、私らはその観念論を真に受け、それを受け入れる事に努め、そしてやっとそれにすがって安心した所を、「ビシヤリ」だから。上げ足をすくわれたような不審をいだきつつも、察して回復の方向に又、歩まねばならない。当然彼らを問い直す事を知るよしもない。そして又、私たちは次の観念論について行くを運命としているのである。私ら部類の人間のこうしていかざるを得ない理由は……「無能力である事」でしかないのに。

そして最後に付け加える必要を感じる。というのは、必ずしもすべてのそれらが私に、地団太を踏ませるのでないのだということ。又、地団太の理由はつまりは「無能力」に「私」にある事を。

「狂歌」

経卒 本園 義雄

「びっくり一年生」

一、右を向いても左を見ても
まるで知らない人ばかり

見る人居る人偉そうで

すべての人に敬語を使った

あつと驚く同級生。

二、今日は生まれて始めての

お酒を飲める大コンパ

さしてさされているうちに

男は皆ぶつたおれ

手じゃくで飲んでた女性群。

良く飲んだものです。うれしいといつては飲み、悲しいといつては飲みました。でも大人になりましたネ、人をたたいてみる人。大声で唄う人。酔ってからむ人。笑う人。まるで別世界の猛獣たち。本当におもしろかったですねコンパって。でもそれをじつとみつめて男なんて馬鹿ネ、といった眼が光る様なヤボな女性が居

なかつたから幸せでした。男って単純なんですよ。飲むと。

、せつない二年生、

一、学校行くには金がある

定期バス代エトセトラ

春も夏も働きづくめ

学校休んで授業料づくり

何のことやら馬鹿のよう。

二、初めてすった煙草の味は

ちよっぴり苦くてせつなくて

甘い夢をどあるじゃなし

こいつが唇の恋人になるなんて

ついでその時考えなんだ。

何の為にでもなく、又何に成るでもなく、やる事その事自体に意味があるのです。青春時代の私にとって唯一の味方は時間でした。それは同時に私にいつもきびしく強く変革を求めました。

、エンディング・テーマ、

一、授業時間を見てみれば

全部出ました一年生

ちよつとさぼった二年生

試験の時だけ三年生

全く出ないよ四年生

二、とうとう最後となつたつけ

四年で無事に卒業だ

悲しみ苦しみあつたけど

今は旅立つおいらにとつて

そいつは楽しい事だった。

悲しい事、苦しい事、数多くありました。でも春の雪どけの様に悲しみもとけてゆくのでしょうか。そしてそれはいつまでも切なく胸に残る故ユーモアと成るのでしょう。



ぶろふいーる

一年生

池本 孝

大分県国東高校出身。特に趣味はありませんが、強いて言うならば書道とあらゆるスポーツでしょう。今後ともよろしくお願ひします。

井田 三穂子(人文)

学生生活の思い出をフェルアルバムに一つばい収めて世界一週の旅に出かけたい。孤独を愛する楽道家なのです。

板倉 義 男(経済)

昭和二十九年八月四日生。十八歳。性格はマジメで、素直である。書道部に入学して本当に良かったと思つてゐる。最近少し肥りぎみ。特長は女ギライ。

川崎 文 孝()

佐賀県出身で県立唐津西高等学校卒です。この伝統ある書道部に入つた以上は、少しでも上達するよう頑張りたいと思つてゐます。

隅 田 ひとみ(人文)

人文学部独語学科で、福岡雙葉卒です。身長百五十九cm、体重kg、顔の特長は、近頃の人も一目でわかる口の大きさです。

性格は単細胞で動作緩慢です。

田 中 博 美(商)

県内の築上郡椎田町西八津田という大都会に生まれ、同じ町にある築上西校が私の出身校です。書道が好き故、四年間やり抜くつもりです。

萩 本 洋 子(法)

純情可憐な心あり、正義感あり、人情あり、友あり、体重多いにあり、鮮麗さをし、力をし、ポ・イ・フレンドなし、身長なし、これが私。

南 部 好 孝(経済)

昭和二十九年九月十日生まれ。長崎の海生高校出身で経済学部経済学科です。趣味といえば工作ぐらい。別に特徴のない男であります。

山 村 昌 次(経済)

出身校熊本県荒尾高校。専攻経済学部経済学科。十九歳独身。女性関係は週間誌が煩いので略します。フォークソングでは、第一ボーカルとして活躍中。

内 野 俊 彦(商)

私の学校は下関の彦島・老ノ山という山の中腹にあるので視界は非常に良い所です。学校の雰囲気はのんびりしておりました。

永 田 すみれ

薬学部薬学科に在籍、ちっちゃな体で頑張っています。好きな

事はいろんな物をかいたりよんだりすることなんです。どうぞよろしく。

二年生

相場信義(商)

商学部商学科の二年です。自宅から通学しているごく平凡を大人しい男で、趣味は、たまにバチンコする事です。麻雀はさほど上手にできません。

石川康弘(法)

昭和二十八年五月三日(憲法記念日)、長崎県南松浦郡上五島町網上に生まる。あまりに暇なので十二月四日退屈しのぎと暇つぶしに書道部へ入りました。

押越和則(法)

男、誕生………おしまい。

折本利文(法)

僕の趣味と言えば、まず何と言っても、第一は洋画気遣いのものである。レコードは三百枚近くある。将来は世界一綺麗で可愛いお嫁さんを貰いたい。

佐野正実(商)

出身地は福岡市、出身校は大濠高校。今先輩達から麻雀を習い打ってみたい。暇な男。書道の方も少し頑張りたい。

末広昌徳(経済)

朝は貴女の為にレモンのキスをする。昼は貴女の為に高原の爽やかな風を送る。夜は貴女の為に天に一際輝く星となる。こんな男……にになりたい。

提知江(人文)

目下のところ一番の楽しみは、西鉄電車が華麗に変身したロマンスカーに乗る事です。そんな二十歳の女の子です。一年生の皆様、仲良くしましょうネッ

松田幸人(法)

一日、自己紹介について思索したが、良い方法が見つかりませんでした。なした鳥取、松は田んぼの中に「堪え忍び打開」僕の好きな言葉です。

宮崎秀博(商)

商・商二年・真面目・親切・容姿端麗・人畜無害・独身。好きな食べ物はいいもの。嫌いな食べ物はいくもないもの。又、極端な独身。

村田博治(理)

早春の様に爽やかな僕、天使も夢みる僕、全世界のアイドル、福大のプリンス、男が嫌いな僕、同性一年間、否になつたなあ。

本村隆徳(経済)

書の魅力、それは女のそれには見られない何かを持っている。

その書を只管に愛し続け、黙々と書の道に励む心逞しき薩摩
人、それが私である。

河野 博 幸 (経済)

前略。書道部へ入るべくして大分の片田舎からやって参りま
したこの僕です。皆の字のうまさに圧倒されながらも頑張つてま
すのでよろしく。

三年 生

石村 保 弘 (経済)

厚かましくも三年生になり学業に専念、且、余力で書道に取り
組んでいる。書道部きつての砕けた男だと確信しています。どう
ぞよろしく。

今柳田 論 (法)

鹿児島県指宿市十二町。僕の郷里はここにあります。もし、指
宿まで旅する事が有りましたら、いつでもお訪ね下さい。

岩崎 邦 彦 (商)

宮崎は延岡市の出身。高校時代より沖田総司を尊敬。商学部。
京都に行きたいと考えている。夏も間近、汗を流した後の一杯
の水がおいしく感じる。

大坪 秀 憲 (商)

博多く鳥栖く熊本く八代く人吉く小林く都城く南宮崎。こうや
ってやっと着いたのが私の生まれ育ったところ宮崎です。いつ

も新婚さんで熱々なんです。

重 益 菜保子 (人文)

自己アピール? ここで取立てて書く事ありませぬ。ただ体は
大きい癖にひどく小心者故、皆さん、どうか労わってやって下
さい。

筒井 靖 彦 (経済)

クラブにあまり来ない男、というイメージがピッタリの三年生
であります。下宿は二百m位しか離れてないのに何故来ないの
かな?

永 田 辰 敬 (商)

純白なる半紙に向ひて、我、意のままに筆を奮う、歎息溢れる
我が思ひ、一本の毛筆に託す、濃墨と余白と創造の世界へ。
― 齋徴と輩 ―

福 鳥 敏 行 (商)

パチンコ・麻雀・ボーリング、全然知らないボクだけど、こっ
そり通ったストリップ。一見真面目な気どり屋も、噂の通りム
ツリなんとかかも?

松 尾 宏 子 (人文)

おしゃべりと書く事が何よりも大好きな三年生です。今、運営
委員をやっています。わからない事があればどうぞ何でも尋ね
て下さい。どうぞよろしく。

森田 卓(経済)

目立たない存在のこの僕。心から書を受し、自分の決めた道をひたすら進む。人はこの僕を「卓ちゃん」と軽々しく呼ぶ意外である。女性に恐怖感あり。

山下 典行(商)

山下君も居ます。こうも力説しておりました。

山崎 雅代(商)

書道部に三年も属しながら、こんなにも目立たぬ女の子がいるでしょうか？ 私は声を大にして言いたい、大きな声で、すぐに折れてしまいそうを花が一輪ある事を。

古川 美穂(人文)

私は、ところ定めぬ放浪者。時には、…都に雨が降るごとく、わが心にも涙ふる…。と月のしづくに濡れながら最愛の子猫をそつとかきいやく。

矢田 正吾(経済)

「人間精神は、人間精神の何を上位観念として持つか！」「人間は何の為に生きるのか！」 愚問か

淵田 精二(経済)

「愛される事は願わしい事だが、愛する事はもっとすばらしい事である。」なんて、キザな事をク 不愛想で、無口で、自尊心が強い人。それが私かな。

四年生

諫山 和弘(経済)

マジシャン、バチンコ、ボーリング、何でもやります若さにかせ。毎日クラブをまぜくりまわし、サフアリアルックのいかにした子。『産業総論』ががんばります。

佐々木 盛勝(経済)

四年に成って狂ったか、それとも前から狂ってたのか。彫刻的を顔を持ち、ニヤッと笑ったその顔で、今日も行きます英語のZ・甲・。

園山 辰夫(商)

この前迄は沈んでた、何か知らぬが悩んでた。ところが今では元気に成って正常の精神状態でなくなった。何も無いのにニタニタ笑う。皆さん、余り近寄らない様。

水野 博文(法)

顔と体に似合わず、以外と潔癖、きれい好き。何の為に磨くのか黒い指の小さを指環。中国的な顔から、今は六朝研究会の會長さん。

八尋 博基(法)

四年に成って下宿した変った奴と思っていたら、もう「来月は家に帰る」と言っている。親も阿呆らしくて送金しない可哀いそうを那珂川の業平である。

落石 香代子(兼)

欠点ないのが欠点。かつぽう、三吉、の二人娘の長女であるだけに、酒も強いし人間もしっかりしている。が、それも程度ものである。(少しは甘えてほしいのよ。)

西村 しのぶ(法)

自称、淑女であるが誰も信じない。色に出にチリ我色は、で最近色んな物を着てくる。本当にチャージングよー服は。

中島 由美子()

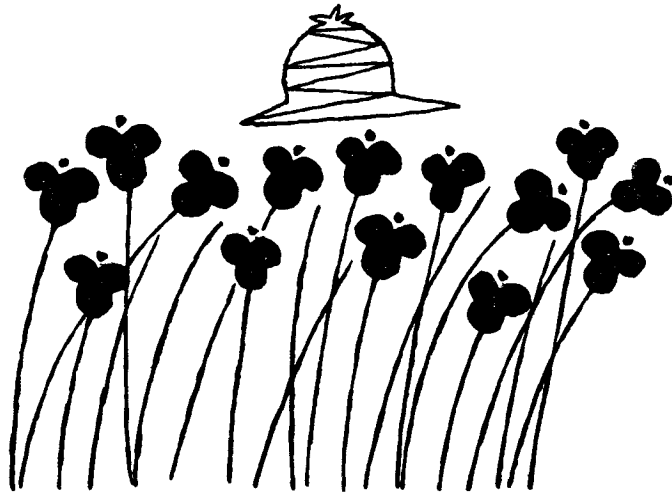
久留米三人衆の重鎮である。これだけ言えば他に言う事は無いが、最近、女っぽく成ってきた。誰か貰ってやって下さい。イヤ遠慮する? 中島さん、ごめんー。 佐々木

村田 昭枝()

それはもうしとやかで、優しく、本当に村岡屋のヨウカンみたいな女の子。料理も上手。味の心はおかあさん。

境 まち子()

大牟田線で鍛えられ、体も大きく成りました。こないだ間違つて京マチ子と呼んだら、まあ、私、あんを大年増じゃないわデスト。でも見れば見る程……。



福岡大学書道部規約

第一章 名称及び目的

第一条 本部は福岡大学学術文化会書道部と称し、本学学生による書道愛好者の団体である。

第二条 本部は部員相互の親睦融和をはかり、人間形成を目指すと共に書道文化の普及、書技の向上を目的とする。

第三条 本部は前条目的を達成するために次の事業を行なう。

一、書道に関する事業

一、書道に関する調査研究並びに機関誌などの刊行

一、関係諸団体との親睦ならびに連絡提携

一、各種展示会出品

一、その他前条目的達成のため必要と認めたる事業

第二章 組織

第四条 本部は講師及び部長各一名を置く。

第五条 本部は幹事、副幹事、会計、企画、庶務、その他必要とする役職を置き、本部を代表する。

第六条 本部は次の機関を置く。

一、役員会

一、部員総会

一、OB会、但、OB会規約は別に定める。

第三章 役員会

第七条 役員会とは、部の円滑なる運営を期するための機関である。

第八条 本会は原則として、第五条に基く役員によって構成される。但、第五条に基く役員以外であっても幹事が認められた場合には、本会に出席することが出来るが議決権は無いものとする。

第九条 本会は幹事によって召集され代表される。

第十条 本会は毎月一回以上開くことを原則とする。

第十一条 本会の議決は、部員総会の決定を妨げるものではない。

第四章 部員総会

第十二条 本会は本部の最高議決機関である。

第十三条 本会は本部の部員によりこれを構成する。

第十四条 本会は必要に応じてこれを開き、幹事がこれを召集する。

第十五条 本会の議長は原則として、幹事がこれを兼務する。

第十六条

一、本部会は部員の過半数を以って成立する。

一、本会会の議決は出席者の過半数の賛成を必要とし、可否同数の場合、幹事がこれを決定する。

但、出席者の過半数の賛成で重要事項とし、その決定には、

出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。

第十七条 本部会不成立の際、出席者の三分の二以上の賛成を以

つて仮議決することができる。但、

一、仮議決については事後部員総会に於いて過半数の承認を必要とする。

一、重要事項は仮議決することはできない。

第五章 役員

第十八条 役員構成は第五条に同じ。

第十九条 第三条に基き、外部関係諸団体へ役員を派遣することができる。

第二十条 幹事は本部を代表し、副幹事は幹事を補佐し、幹事に支障ある時はその職務を代行する。

第二十一条 本部の役員改選は選挙制にし、これを重要事項と認め部員の無記名投票による選挙を行なう。

但、委任状は認めるが、委任の方法は年度によって異つても良いものとする。

第二十二条 本部の役員の任期は四月一日より翌年三月三十一日までとする。

但、役員改選後、翌年三月三十一日までは代行期間とし、その責任は新旧役員の連帯責任とする。

尚、欠損が生じた場合これを補充する。

第二十三条 役員改選は原則として十月に行なう。

第六章 役員の仕事

第二十四条 役員の仕事は次の通りである。

一、幹事は部務を処理し、部を統括する。

又、部の代表責任者であり、その責任を学術文化会と部全体に負う。

一、副幹事は幹事を補佐し、幹事に支障ある時はその任務を代行する。又、福岡大学書道部OB会の事務を担当する。

一、会計は部員徴収並びに部費予算に関する収支の記録決算書を作成。

一、企画は第一章第二条に定められた、本部の目的にそつて諸活動を企画する。

一、庶務は本部の活動に必要な諸事務を行ない、資料の徴収保管をなし、機関誌の発行を行なう。

但、機関誌の発行は年一回以上とする。

一、第五章第十九条に基く役員は、本部関係諸団体との親睦融和を図り部の向上を目指す。

第七章 会計

第二十五条 本部の会計年度は四月一日より翌年三月三十一日までとする。

第二十六条 本部の部費及びその他の所定納入金については、前年度末に部会に於いて決定しなければならぬ。

第二十七条 会計報告は会計が行なう。又、部員の要求に応じて会計簿を公開し、年一回決算報告書を作成し、これを報告する。

第八章 部員の権利義務

第二十八条 本部の部員は次の権利を有する。

一、本部のあらゆる活動に参加し、人間形成の場として利用すること。

一、本部の部員総会に出席し、その議決に参加すること。

一、本部に於ける選挙権、被選挙権を有する。

一、本部の備品及び図書を利用すること。

第二十九条 本部の部員は次の義務を負う。

一、部員は部員総会に出席すること。

但、やむをく欠席する者は事前に欠席届を幹事に提出しなければならぬ。

一、部員は部費その他の所定納入金を定期に納入すること。

一、本部の規約に従うこと。

第九章 入部・退部

第三十条 本部の入部は年度始め募集することを原則とし、学文

会登録及び入部金納入を以って部員とする。

第三十一条 本部の退部は書面を以って幹事に願ひ出て、役員会の承認を得、部員に通達する。

但、退部を希望する者は、その在籍期間までの所定の納入金を完納する。

第十章 罰 則

第三十二条 書道研究する熱意なく本部の名譽を汚したる者、部活動を理由なくして一ヶ月以上怠つた者。又、部の秩序を乱す者は部より除名する。

但、欠席届提出者についてはこの限りではない。

第十一章 規約 改正

第三十三条 本部規約改正の発議は部員総会に於いて部員の四分の一の同意により総会の議決を経て行なわれる。

尚、改正においては、本部員の三分の二以上の出席を必要とし、その出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。

附 則

附 一 本規約は、昭和三十五年十一月一日より実施、昭和四十五年四月一日改正。

書くことは

動くこと。

筆の動きは

いのちがいのちになるための関門。

筆は

私が私になるための場

筆があるから私は自由を得ることが出来る。

墨も紙もそして文字も

同じく自由への場として恵まれてる。

かくて

文字をかけば

書が生まれる。

編 集 後 記

◇ 機関誌発行も既に十四回となり、書道部にも漸く歴史が生まれようとしています。この大切な一年一年の記録を皆で育てて行きたいものです。

◇ サークル運営・行事・その他色々建設的など意見をお寄せ下さい。また発行にあたり、皆様の御協力感謝いたします。

◇ 健康に注意して、充実した日々をお過ごし下さい。

荒 鷺 第十四号

福岡大学学術文化部会

「書道部機関誌」

昭和四十八年 月 日発行

編集責任者 岡 田 精 二

古 川 美 穂

印刷所 福岡市中央区大名二丁目七番一号

福岡タイプ

TEL(七七)一六〇四